

### 口腔内写真撮影相互実習研修会に **参加** しました

(増澤真由 田中歯科クリニック)

先日、日本ヘルスケア歯科学会主催で口腔内写真撮影相互実習研修会が行われたので参加してきました。

私は昨年の終わりがら院内で口腔内写真の練習を開始し、ときどき患者さんの口腔内を撮らせてもらっていたのですが、部位によっては撮りづらかったり独自の癖がついてしまっていたりと、度々苦手意識を感じる箇所があったので、院長から今回の研修会のお話をもらったとき、少しでもそれが改善するきっかけになればという思いで参加を申し込みました。結果、参加してよかったと思

える内容でした。

午前中、口腔内写真の基礎として写真を撮ることの意義や目的、基本の構図、撮影方法についての座学を受け、午後は実習室に移動しての実技の講習でした。

実技では2人1組になって写真を撮るのですが、それぞれに講師の方がついてくださり、つきっきりで指導していただいたので、特に自分が苦手な部位を集中的に練習することができました。ミラーの挿入角度や私の撮影時のクセについての確かな指摘とアドバイスをいただき、繰り返し練習をすることで、今までで

となく勘で撮っていた部位が徐々に撮りやすくなっていくのを実感できました。

今回の研修会でいただいた指導と感覚を忘れないように、練習を重ねて自分のものにしていくように日々精進しようと思います。ちなみにわたしのクリニックの先輩は口腔内写真を撮るとき、心の中で「よし！きた！いいね！」と言いながら篠山紀信ばりにパシッパシッと一枚ごとキメて撮っているそうなのですが、それくらいわたしも毎回パシッとテンポよく規格性のある写真を撮れるようになりたいものです。

### デンタルオフィス

# 白書



芦屋市 医療法人社団むらまつ歯科クリニック  
メーカー：FOLK

気に入っているところ；  
医院のロゴが刺繍されているところ

寒さ対策；  
ユニフォームの下にヒートテックを着ています

医院のロゴがすごく可愛く刺繍されていました。

シューズ：FOLK

洗濯方法；自宅で洗濯するか、長期休みなどにクリーニングに出しています

カフェのようなエプロンも素敵ですね。

### 他の医院さんは...

#### 当院における院内 POP 作成の取り組み

当院は開業して27年になる歯科医院である

私は歯科医師である父を小学生の時に亡くしており、その後父の友人がクリニックを継いでくれたこともあり平成27年、卒業3年目で実家の歯科医院を継承し院長となった。

歯科医院としての歴史、そして土地柄もあり65歳以上の患者さんが1/3を超える超高齢クリニックである。

よって院長のブログやホームページのSNSを見ている人はほぼいません...

というわけで、院長が患者さんにお伝えしたいトピックスをPOPとして、お届けしています。



安岡大介 (歯科医師) 横田 茜 (受付・歯科助手)  
(医療法人社団恒誠会 やすおか歯科医院)

#### 歯科医院の待合室といえば

様々な掲示物やメーカーさんから送られてきたポスターを貼るといったこと通例となっているかと思

います。もちろん完成されたものであるため悪いとは思われないが通年貼っぱなし、風景に溶け込んでしまっ

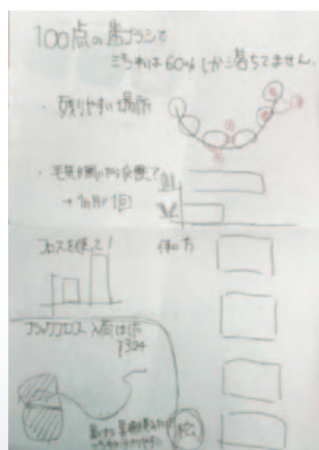
ていませんか？

従来は院長がパソコンで作成したスライドを貼っていました。当院スタッフの横田がドラッグストアの勤務経験を生かし、機械的なものではなくヒトの温かみがある手書きのPOP作成となりました。



#### POP作成までの流れ

- ① 院長が「思いついた」トピックスのラフ画を描く
- ② その裏付けとなるイラストや参考画像をメーカー
- ③ 概要を伝える
- ④ インターネットを参考に書き出し完成



もちろん絵や文字の上手い下手はあるかとは思いますが、一つの情報を貼りっぱなしにするのではなく、ある一定の間隔ごとに違う風景になっていること、歯科医師・歯科衛生士が作るのではなく、受付・歯科助手が取り組むことによって医院として情報の共有患者さん目線の情報をお届けできるのでは、と考えています。



### ちゃんと砥げてる？ ~シャープニング力をUP!~ 3

今回は、グレーシーキュレット 11/12のテスト法です。

グレーシーキュレットは、テストスティックを用いて切れ味を確認しますが、キュレットの番号によってテスト法を変える必要があります。



落合真理子

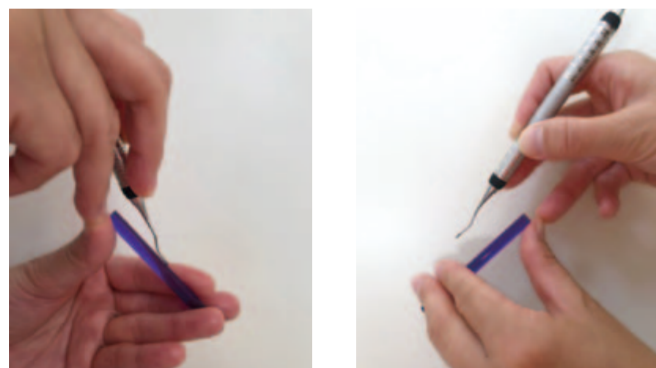


図1

図2

#### 11のテスト法

- ・左手にテストスティックを持ち、手前に傾ける
- ・テストスティックを持っている左手の親指をテストスティック上部へ上げる
- ・右手の薬指を左手の親指に置く(レストを取る)
- ・テストスティックを真上から見て12時の位置に11のブレードを当てる(図1, 2)



図3

図4

#### 12のテスト法

- ・左手にテストスティックを持ち、手前に傾ける
- ・テストスティックを真上から見て、13時の位置にレストを取る
- ・テストスティックを真上から見て、7時の位置にブレードを当てる(図3, 4)

どちらも、前号でお伝えしたように、【かかと】【中間】【先端】に分けてテストします。

テストスティックへの食い込みを感じながらゆっくり行ってください。

特に、11は食い込みや音を感じにくい場合がありますので、何度もテスト練習を重ね、習得できるまで頑張ってください！！

本連載も3回目となりました。シャープニングに対するご質問などありましたら、お気軽にメールでご連絡ください。(marico.sharpening@gmail.com)

### 育成プログラムに参加して

第12期

#### 5回目 SRP 講義を終えて

講義は最初に、歯周組織図を正確に描くという内容から始まりました。学生時代に誰もが習いテストでも出題される定番の内容です。なにより、歯周組織をきちんと把握していなければ歯周治療などできるわけがなく、歯科衛生士であれば誰もができて当然の内容です。

ところが... 実際学校を卒業して何年も教科書から離れた歯科衛生士の場合、果たして何割の歯科衛生士が正確にこれを描けるのだろうかとハッとしました。

やはり医療に携わる人間として、大事なことは基礎中の基礎を忘れないことであり、定期的な書籍に目を通し、基本を大事にし、その上に新しい情報を更新していくことなのだ改めて思いました。

午後はSRPの実習を行いました。様々なパターンのSRP方法を実習し、普段あまり経験することのないキュレットによるルートプレーニングも行いました。想像以上にその振動と音が自分に響き、患者さんはいつもこんな体験をされているのかと相手の立場になって考えることができました。日々臨床に携わっていると様々な口腔内

と接することになり、口唇が小さい方やなかなか開口量の少ない方など様々な問題とぶつかります。自分が知っているやり方が適応ではないと感じる場合、「やり辛いな」と思いつつもそれでも従来通りのやり方を通してしまふことが多々ありました。そこで今回教わった「自ら考えてみる」こと。どうすればやりやすくなるか、どうすれば相手の負担も減るのか、投げ出さず少くも立ち止まって考えてみると、意外とすぐそこに良い答えがあるかもしれないということでした。

忙しい仕事の中でつい忘れがちになりそうな基本中の基本を、この日改めて教えていただいた気がしました。

(栗原里美 おひさま歯科クリニック)

6回目は、コースで習った歯周基本検査や口腔内写真の実技検定がありました。講師の方々に見られている中で行う検定はやはり練習とは違い、緊張もあり練習通りにはいかず、うまくいきませんでした。検定後のフィードバックで担当して下さった講師の方に直すべき点をアドバイスしていただくことができました。自分の苦手な



箇所をしっかりと見直して正しいものを身につけていきたいと思いました。午後からはSRPについての講義がありました。私は歯周病治療を始めたばかりなので歯周病治療の効果を実際に感じたことはありませんが、今回の講義で長期的な症例を見ることができとても勉強になりました。歯周病治療を行っていくうえで、診査・診断、患者様とのコミュニケーション、治療後の評価、定期的なメンテナンスで管理していくことが大切だということが分かりました。今回のコースで学んだことを復習し日々の診療で生かしていけるように頑張ります。

(沖原由季乃 うぐすす歯科医院)



【The HyG Times】異常な暑さの中、みなさんいかがお過ごしでしょうか。6月には地震、7月は豪雨によってたくさんの方が被害が起きました。まだまだ復興に向けて時間がかかる地域もあると思いますが、全国の仲間たちで支えていければと思います。11月にあるヘルスケアミーティングや禁煙支援歯科衛生士プロジェクトにて、また元気に顔を合わせましょう。夏を楽しむ中でも体には十分気をつけましょうね！私は先日、酔っ払って脱水を起こしおでこを怪我しました。

「ハイジなわた歯」 隊長：山田美穂 情報提供・質問・問い合わせ 「The HyG Times 編集部」 Hygtimes@gmail.com